



© 麦 - stock.adobe.com

育児休業等を取得した男性の体験談や周囲の人たちの声を紹介します。

# 家族で育児を中心とした 新たな生活スタイル確立

迷っていたときに、  
会社や仕事仲間が  
背中を押してくれた  
ことに感謝



育児にかかわる意識を持ってたのは休業期間の経験が大きい。復帰後も早めに帰れるように心がけている

株式会社プロトソリューション  
Webマーケティング部  
アカウントマネージャー

まきや  
真喜屋佑紀さん

2012年入社。Webマーケティング部にて、グルメサイトのデータ整備業務に従事。現在は、大手通信事業者のWeb広告事業のマネジメントを担当



- 1 お風呂に入れるのも初めは緊張していたがだんだんと慣れ、職場復帰したあとも担当している
- 2 休業期間は、生まれたときから育児にかかわったことで、日々のちょっとした成長にも気づけ充実していた
- 3 最初はお米を炊くのが精一杯だったところから、休業期間でオムライスをつくれるようにまでなった
- 4 職場復帰後、平日に子どもとかかわれる時間が減った分、休日は積極的に家事と育児に励む

一切考えずに休んで！  
上司に背中を押され取得

株式会社プロトソリューションに勤務する真喜屋佑紀さんは、2022年9月～10月の約1カ月の育児休業を取得しました。同社では、Webマーケティング部でチームの生産性の管理、緊急時やトラブル発生時に対応する役割を担っています。そうした職位にいたこともあり、育児休業の取得を迷っていたと話します。

「育休を取ったほうがよいとは思いつつ、業務的に取れるのか想像ができませんでした。そのため、上司に2週間の取得を相談したのですが、上司も子育てをしている女性だったので、「2週間じゃ足りないんじゃない？1カ月くらい取ってサポートしてあげたほうがいい。育休中の仕事は私たちがしっかりカバーするから、安心して、仕事のことは一切考えずに休んでほしい」と力強く背中を押してもらえました」

長期取得に対して会社のサポートも得られ、2カ月前から

同じ立場の人に業務の共有をしながら引き継ぎを行い、育児休業に入りました。

任せられるチームに  
なっていたことに気づけた

育児休業を取得したことで、生まれた直後から育児を経験できて良かった、と真喜屋さんは話します。

「妻は産後に体調を元に戻すのが大変そうでした。私も、すべての家事や育児をしようと意気込んでいたのですが、苦手な家事など自分では対応できないこともあったので、夫婦でフォローし合いながら1カ月を過ごしました。小学生の長女も積極的に生まれたばかりの弟の面倒をみてくれ、家族と一緒に育児にかかわったように感じています」

小さな子どもを抱っこすることの緊張感で筋肉痛になって落ち込んだり、自分のペースで生活できないことに戸惑ったり、さまざまな発見のある休業期間だったとのこと。

「平日の育児の負担が少ない分、土日はしっかり育児するように努めています。生活リズムも変わり、長女の学校への送りは継続するなど、状況に応じて臨機応変に対応しながら過ごしています」

「育休休業を通じて、仕事の面でも気づきがあったとのこと。『忙しくてとても休めないと思っていました』が、今回1カ月の休業を取ったことで、任せられるチームになっていくことに気づけましたし、頼れる部下がいる、任せられる仲間がいると痛感しました。また、子育て中の社員の急な休みや早退、フォローについても、当事者意識を持って対応できるようになった気がします」

真喜屋さんは今後、育児休業を取得したいという社員がいたら、自信を持って取ることを勧めたいと言います。

## 上司の声

Webマーケティング部門 執行役員 上間瑠美子さん

入社時から知っている真喜屋さんがパパになる、そして育休を取ると聞きとてもうれしかったです。とはいえ彼は大所帯のチームを管轄していたので、育休でチームを長期間離れることに不安があったのも事実です。結果的には彼が育休を取得することで、ほかの社員がサポートし合い組織力が高まりました。真喜屋さんも育児に参加できた喜びと、仕事を離れリフレッシュできたことで、元気いっぱい戻ってきてくれました。今後も、仕事と家庭を両立する社員の模範として期待しています。

## 勤務先情報

株式会社プロトソリューション

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7-10-25  
プロト宜野湾ビル

創業: 2007年4月3日

従業員数: 486名(2022年1月1日時点)

事業内容: デジタルマーケティング事業、ITインテグレーション事業、ユーザーメディア事業、コミュニケーションサポート事業、人材支援事業

